

分野 文化

地域 唐津

◎地図・写真・統計資料など

かんね話

～江戸中期から語り継がれた笑い話～

唐津地方に伝わる代表的民話「勘右衛（かんね）話」は、老人から子供に至るまで、古くから親しまれてきました。滑稽で風変わりな「勘右衛さん」の奇行として 江戸中期から語り継がれた笑い話で、唐津の風土・習慣に加え、昔ながらの唐津の方言で語られる物語です。子どもたちは「聞かにゃ寝られん」と何度も同じ話をしてもらったといえます。

江戸時代、唐津に「勘右衛門」と言う人が住んでいました。人々は彼のことを、親しみを持って「勘右衛（かんね）どん」と呼んでいました。この、こっけいで風変わりな人、とんちは効くが、ずるがしい人「かんね」は、人気者でしたが、必ずしも好意を持っている人ばかりでもありませんでした。類似の話は全国各地に伝承されています。九州では「大分の吉四六」と「熊本彦市ばなし」が有名です

■かんね話例

“日本一の山”

今日は、かんねどんの、日本一の山の話ば、しゅうだい

大石村の若者達が若者宿に集まって、世間話に花を咲かせておりました。

一人の若者がいかにも得意顔に「日本一高か山はどこにあるか知っとるか」と、尋ねました。するともう一人の若者が「そりゃ 駿河(静岡県)の富士山ばい。不ことも書くから、あの山より高か山はなか」と、知ったふりをしました。そのとき かんねどんは横になって寝ておりましたが、すぐに起きあがって「なんちゅうことを言うか。この馬鹿者どもが」と、大声を出しました。

話をした者も、話を聞いた者も、なぜ かんねが大声を出して怒鳴ったのか分からず、びっくりしてしまいました。中でも馬鹿者と言われた若者は真っ赤な顔をして怒り「馬鹿者は、かんねお前じゃなかか。誰にでん聞いてみんかい。日本一の山は富士山だと言わずぞ」と、文句を言いました。すると、かんねは「そう、思い込んどるけん、馬鹿て言うぞ。唐津ん近くに日本一の山があるとば知らんとは、情けなかなア」と、言います。それで若者はますます意地になって「そん山はどこにあるか言うちみんかい」と、かんねに詰め寄ります。しかし、かんねは落ちついて「そんくらいのこと知らずに、恥ずかしゅうはなかか。中町の竹屋のうなぎば賭けるなら、教えてもよか」と、若者をひやかします。すると若者はますます頭に来て「よし、賭けをしよう」と、かんねの賭けに乗ってきました。するとかんねは右手で胸ぐらをトンと叩き、ゆっくりと「その山は、鏡山たい」と、言いました。すると若者は目の玉を白黒させながら、「鏡山？ 鏡山がなんで日本一高か山かい。かんね、お前こそ馬鹿者ばい。いいかげんなことば言うとはやめといてくれ。あん 低っか山がなんで日本一かい。浮岳より低かじゃなかか」と、反対かんねをやりこめます。すると「そう、見たとおりにいかんところが面白かと。お前達は毎日鏡山ば見とるけん、低かて思うとろうが。よう考えてみろよ。鏡山は名前のとおり、今はかがんじょる(かがんでいる)。あの山が立ち上がってみろよ。どのくらい高くなるか見当もつかんぞ」と、教えました。この話のやり取りを、脇で聞いていた若者たちは「本当、本当、かんねの言うとおりにゃ」と、かんねどんの意見に同意しました。そこで、この賭けはかんねの勝ちとなり、かんねは竹屋のうなぎをただで食べました。今日の話は、ここまで…。

(富岡行昌 著 「かんねばなし」より)



2011年唐津キャスルライオンズが発行した絵本

◎引用・参考文献（出典）

- ◆『唐津かんねの昔』 富岡行昌 著
- ◆『かんねばなし』上・下 富岡行昌 著

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsucity.jp/hp/cnts_lib/index.html